



みちのく

支		
自転車輸送費 (往復保険料 900円を含む)	秋葉 塩釜 上野 仙台	
汽 車 賃		
ハイヤー・電車 バス代	電 車 費	
食 宿 泊 料		
部品(スベア)	札 料	
荷 籠	ハガキ ノート	
仏 閣 拜 観 料		
自転車預ケ賃		
お土産三ケ		
切手 5円30枚		
残 金		
合 計		

り、好き
嫌いはあ
っても机
に坐つて
いる人と
肉休労働
する人と

の開きはない
のが、サイク
リングツアー
である。のど
がかわくとき
は誰でもかわ
く。食事は誰
でも脂肪分を
欲する。腹が
へる時間もそ
う開きはない
だから全然拘
束はない。そ
れよりも時間
を有効に使うという一事をこそよく評価
すべきであろう。

第三番は、当然のことであるが、消費
は非常に計画的になる。これは大名旅行
でないのだから絶対的によいことであ
る。そして有効に使われる。このことは
ツアーを充実させることになる、例えば
ツアーに写真はつきものであるが、これ
も四台のカメラに皆で相談した指定のフ
イルムをつめる。今回はマキュリーにカ
ラー(四〇枚撮)アイレス35にSS、レ
チナIIAにSSS、オリンピックスワイドに
Sというようにフィルムをつめてカラー
一本、モノクローム八本をとった。カメ

ラマンの腕を信頼してはじめて可能なこ
とも知れぬが、芸術作品を作るのでな
いからその点気も楽だし、進歩した機械
とフィルムと、電気露出計と揃っている
のだから、あとは手ブレをしなければ、
ツアーの記念として楽しむには充分な写
真はできるわけである。そして撮影は常
に全員の欲求のもとに行われたことはい
うまでもない。ただ白状しなければなら
ぬが、この写真代が全部写真屋さんに借
金になってしまった。これはマネジャー
の計画の失敗であった。写真については
マネジャーたるものよくよく予算に慎重
でなければならぬと思う次第である。
それでも上野につくまで五八七円の残金
のあつたことはよかつたし、写真材料費
を借金にしておいたこともせめてもの幸
であつた。

以上はマネジャーのてんまつ記である
が、ふりかえつてよかつたと思うのは、
みんなが東京を出るときから帰るまで一
つの財布で同じものを食べ、同じものを
飲んだことである。

最後に大きな仕事として仙台で行つた
サイクリストをかこむ懇談会について附
記し、この催しをして下さつた東部輪業
通信武田編集長に誌上お礼を申し上げ
る。懇談会に先立つてMCTC(宮城サ
イクリング・ツーリスト・クラブ)の十
六名の方々が熊ヶ根橋まで出迎えに出て
くれた。ここで交換を行い、仙台まで二
〇キロを下り、市内に入り牛乳屋さんの